

第2回懇談会の主な意見等について

<改築基本方針（たたき台）について>

- 図書館側の取組について、図書館の改築一般に言えることだけでなく、宮前図書館らしさを踏まえたものも入れてほしい。
- 宮前図書館は杉並区の地域館では一番面積も広く、利用者もとても多い。学校関係者としても、お互いがいかに協力できるか考えていきたい。
- 取組1「少人数や個別学習、学年単位」について、学年集会ができる部屋や多様な学習形態に合った部屋の必要性は非常に感じている。
- 取組6「地域コミュニティ」について、開かれたコミュニティの拠点となるよう、具体化してほしい。
- 図書館に自由に入出入りする人たちと学校のセキュリティ確保の関係について、整理していく必要がある。
- 中学校に図書館があることのメリットもあるが、地域の図書館を居場所としている不登校の子もいる。

<敷地条件・配置スタディについて>

- 建物配置が住宅地側が変わる場合、周りの方の日当たりや子どもたちの声への配慮が必要だと思う。
- 高さを抑えるためにも、地下や半地下を検討してもよいのではないか。
- 学校の面積は7,500㎡との話だったが、現実的にこれから教室が多様化したときにその基準で問題ないか。
- 校舎が敷地内に入ることは分かったが、「地域コミュニティの拠点となる開かれた学校づくり」「文武両道の校風を支える十分な校庭環境の確保」ができるのか、検証が必要だ。
- 高井戸中学校は、図書館との複合化により、生徒が図書館に通う機会が多くなったとのことだが、敷地面積が西宮中より3,000㎡以上広い点で異なる。
- 駐輪場や、障がい者用の駐車場、車椅子の移動経路などのスペースも必要である。
- 静かな中で読書がしたい図書館利用者と、部活動など活気溢れる中学校との共存ができるのか心配である。
- 静かな図書館というイメージは、ぜひ変えていただきたい。図書館は単に読む場所だけではなく、地域住民がいろいろな生活課題や、住民それぞれの課題を持ち寄り、皆で分け合って解決していくというコミュニティになるべき。

- 学校と図書館の複合化によるメリットをもっと明確にしていく必要がある。
- 運用面をうまくやっていくかは人次第である。敷地や建物より、まずは複合化が本当に良いことなのか検討する必要がある。
- 子どもの視点から見て、自分で調べて自分の考えをまとめるには公共図書館はなくてはならない存在である。今回、複合化をすることのメリットを期待している。前向きな形での運用・活用も考えていく必要があると思う。
- 図書館の跡地利用が決まっていらないのであれば、図書館のままでもよいのではないかと思ってしまう。
- 図書館の駐輪場があると、学校行事の際、保護者が大量に自転車を停めてしまう可能性がある。

<その他全体を通じて>

- 改築中に校庭で部活動ができるのかは、進路を決めるにも大きな要素である。
- 現役の中学生やこれから中学生になる小学生が実際にどのようなものを希望しているのかを聞いたほうがよいのではないか。
- 人口減少に対して、スリム化は行政の課題であることも考えなければならない。